

す え き きやくつきつぼ し が こうえんいせき  
**須恵器脚付壺 志賀公園遺跡**

**1 志賀公園遺跡とは**

志賀公園遺跡は、名古屋市北区平手町、西志賀町に位置する弥生時代から中世の時代を中心とした遺跡です。矢田川合流後の庄内川左岸に所在し、標高5mの沖積平野上に立地しています(図1)。

発掘調査は1996~1998・2000年に愛知県埋蔵文化財センターによって実施されました。前方後円型の墳丘墓(SZ09)と思われる遺構やその周囲の遺物集積(SU10~14)から5世紀代の須恵器、土師器が大量に出土したことが大きな成果の一つです(写真1)。

**2 須恵器脚付壺について**

須恵器脚付壺の実測図を掲載しました(図2)。

最初に目に入るのが壺の方の部分にぽっかりと開いた穴です。実はこの穴、土器を整形する時に粘土を切り取って開けています。発掘調査をしていると、意図的に穴を開けられたもの、壊されたものが全時代を通じて出土します。この土器の場合、整形段階で粘土を切り取って穴を開けていることから、はじめから実用品として作られていないことがわかります。前方後円型と推測される墳丘墓の周囲で出土していることから、埋葬された人に対する供献物であったのでしょうか。しかしなぜ穴を開けるのでしょうか。みなさんと想像してみるのも面白いと思います。

壺の頸部から胴部にかけては直線が刻まれています。この直線は二子線または二子沈線と呼ばれています。5世紀初頭から半ばにかけて猿投窯(猿投山西南麓窯跡群)で作られた須恵器に見られる特徴です。

**3 愛知県の須恵器生産について**

志賀公園遺跡が形成された5世紀、「技術革新の時代」とも言われるこの時代には、ヤマト王権の主導の下、伽耶、百済などの朝鮮半島の国々から新しい文物、技術が導入されました。須恵器生産も新来の技術の一つです。

5世紀初頭に畿内ではヤマト王権の管理の下、

すえむら  
 陶邑窯(大阪府堺市・和泉市・岸和田市・狭山市)が操業を開始します。同時期に四国・九州などの地域でも在地首長が渡来人から技術導入し、須恵器生産を開始します。

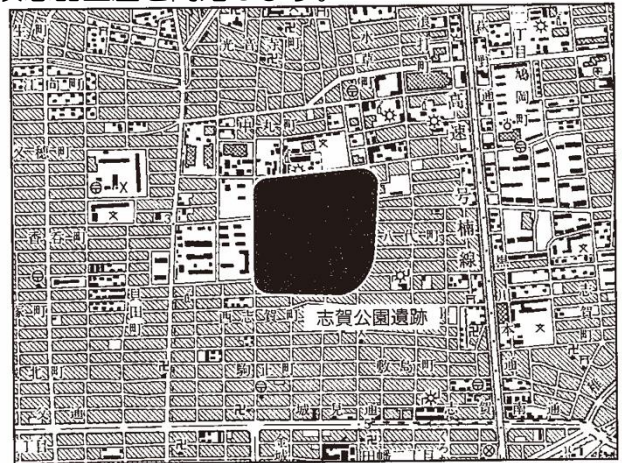


図1 志賀公園遺跡の位置(文献1より)

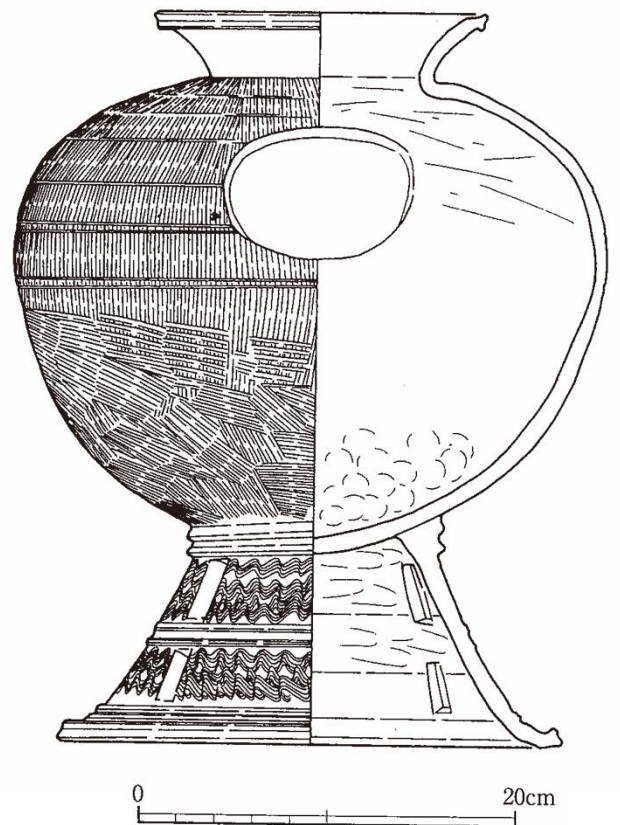


図2 志賀公園遺跡出土脚付壺(S=1/4)  
 (文献2より)



写真1 志賀公園遺跡出土初期須恵器・土師器（文献1より）

猿投窯での生産はこれら窯跡群とほぼ同時期あるいはやや降って開始されたと考えられています。名古屋市中区の正木町遺跡や伊勢山中学校遺跡で5世紀初頭に遡る須恵器が出土しています。

窯跡の分布が確認されるのは5世紀中頃からです。この時期から6世紀初頭の窯跡は、猿投窯東山地区に構築されます（図3）。名古屋市東部の低位丘陵である東山丘陵のほぼ中央西端で、伊勢湾に注ぐ山崎川によって開析された谷の入り口に集中して分布しています（城ヶ谷 1998）。

### 参考文献

- 1 愛知県 2005『愛知県史 資料編3 考古3古墳』
- 2 愛知県 2015『愛知県史 別編窯業1 古代 猿投系』
- 3 城ヶ谷和広 1998「猿投窯における須恵器生産の展開-分布の問題を中心に-」『檜崎彰一先生古希記念論文集』

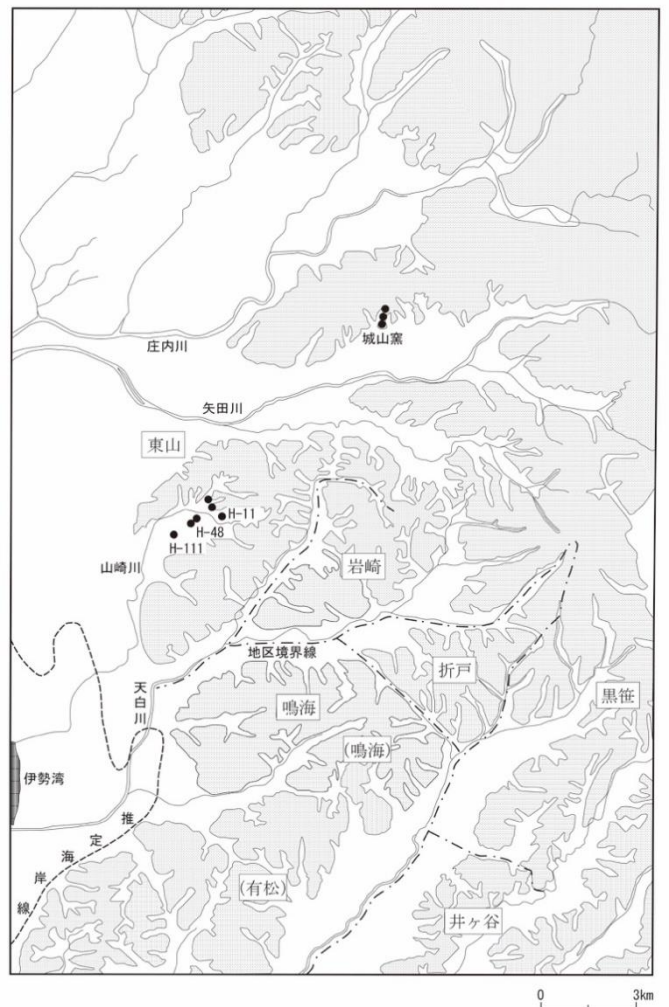


図3 5世紀代の窯跡分布図（文献3掲載図をもとに作成）